

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部会報

Japanese Association of Clinical Developmental Psychologists

第10号(2008年5月1日発行)

発行 日本臨床発達心理士会中国・四国支部
編集 日本臨床発達心理士会中国・四国支部会報編集委員会
事務局 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1 広島大学大学院教育学研究科幼児教育学研究室
TEL:0824-22-7111(内線5680) FAX:0824-24-5261

目次

- 1 ご挨拶
- 2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第6回総会のご案内(重要)
- 3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第11回研修会報告
- 4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第12回研修会報告
- 5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第13回研修会のご案内
- 6 事務局からのお願い
- 7 編集後記～会報企画へのご投稿を～



1 ご挨拶

日本臨床発達心理士会 中国・四国支部
支部長・幹事 猪木省三

新緑の季節となりました。中国・四国支部の会員の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年度の総会で前支部長・幹事の山崎先生から引き継ぎましてから、早いもので1年が過ぎようとしております。この間、支部研修会をはじめ支部の活動に対しまして、皆様から多大なご協力を賜り感謝の言葉もありません。あらためてお礼を申し上げます。来年の総会の任期まで精一杯務めさせていただきますので、引き続いてのご支援、ご協力を心よりお願い申し上げます。

さて、今回の会報でご案内しております通り、来る6月7日(土)の13時から支部総会、続いて14時から支部研修会を開催いたします。

支部総会は年に一度の支部会員の会合ですので、ぜひお出かけ下さり支部の活動についての意見交換、情報交換に参加いただきたいと思います。

支部研修会は今回で第13回目となります。支部の活動も2003年4月の発足から5年を過ぎ、これまでの活動の振り返りとともに、今後の活動のあり方について皆様で考える場を設けてはどうかと考えました。もちろん、臨床発達心理士に関わる研究、実践、活動をなさっている方のご発表をうかがう場ともしたいと存じます。そこで、これら2つのねらいを満たす企画として、支部研修会としては初めての試みですが、シンポジウムの形を取ります。発表者、指定討論者のご発表はもとより、当日参加していただく支部会員の皆様の意見交換、情報交換の良い機会となればと願っております。ぜひご参加下さいますようご案内申し上げます。

なお、ご都合で当日の出席がむずかしい会員の方は、総会への委任状をお送りくださいますよう、勝手ながら、何卒よろしくお願い申し上げます。

2 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第6回総会のご案内(重要)

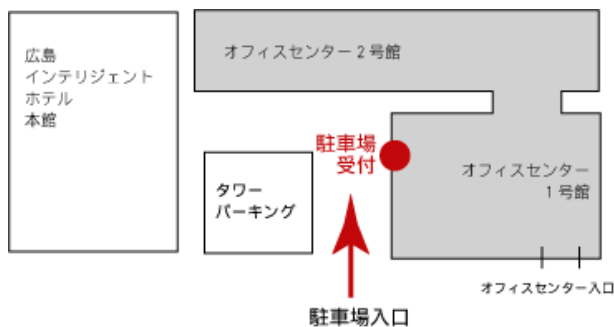
2008年度中国・四国支部総会を次のように行いますので、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

1. 日 時 2008年6月7日(土)13:00~14:00
2. 場 所 広島オフィスセンター 住所 広島市南区東荒神町3-35
電話番号 (082)263-8600
3. 議 題
 - (1) 2007年度活動報告
 - (2) 2007年度会計報告
 - (3) 2008年度活動案計画
 - (4) 2008年度予算案
4. 広島オフィスセンターへのアクセス



■ 車

ホテル前の道は、一方通行となっておりますので図の通り、陸橋下でぐるっと右折してください。駐車場はホテルのすぐ右隣の路地にあります。



■ 徒歩

広島駅南口を出たら、左手側の線路沿い(大阪方面)にずっと歩いてください。途中にあるフタバ図書 GIGA や愛宕踏切が目印です。荒神陸橋をくぐるとすぐです。徒歩7~10分で到着します。

※ なお、ご都合で出席なさらない方は、必ず期日までに事務局宛に委任状をお送りください。総会成立のためにご協力の程お願い申し上げます。

3 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第11回研修会報告

2007年9月8日(土)、鳥取大学生涯教育総合センター教育実践室において、中国・四国支部第11回研修会が開催されました。今回はテーマを、『臨床発達心理士による発達障害児への支援』とし、講師に寺川志奈子先生(鳥取大学地域学部・准教授)と神谷育司先生(名城大学・名誉教授)の両先生をお迎えしました。

まず、参加者の簡単な自己紹介を踏まえた後、寺川先生より「乳幼児期における発達アセスメントと支援のあり方」、神谷先生より「発達障害児のフォローアップ：思春期への過程において」をテーマとしてそれぞれ1時間程度ずつご講演頂きました。寺川先生のご講演で紹介された事例からは、ひとりひとりの子どもの発達に寄り添うことの大切さが示されていたように感じられ、改めて「アセスメント」というものの難しさについて考えさせられました。また、神谷先生のご講演では、先生が近年関わっておられる、情緒障害児短期治療施設や児童養護施設における虐待児の実態についても触れられ、発達障害児に留



まらず、子ども一人ひとりの発達保障が重要であることに言及していただいたように感じております。両先生のご講演の後には、フリーディスカッションとして、先生方のご講演を踏まえて、参加者のみなさまが日常的な支援の場において抱えている疑問などについて意見交換が行われました。

参加者数は15名、臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。

4 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第12回研修会報告

2008年1月12日(土)の午後2時から午後5時まで、愛媛大学教育学部において、中国・四国支部第12回研修会が開催されました。講師として吉松靖文先生(愛媛大学教育学部障害児教育講座・准教授)をお迎えし、「発達障害支援から見直すー保育・教育の在り方」と題してご講演いただきました。ご講演では、ADHD児、LD児、自閉症スペクトラム児の特徴、それぞれの子どもたちが抱える困難さ、小学校における支援や授業の工夫など、具体的な例を交えて丁寧にお話いただきました。さらに、発達障害児のいるクラスの運営の仕方、子どもの発達とその支援の在り方、保護者との対応の仕方など、発達障害児の支援に関する示唆に富むお話を伺いました。その後、参加者から活発に質問が出され、発達障害児の支援のあり方をめぐって有意義な討論が行われました。この研修会は、臨床発達心理士でない方の参加も可としたので、これから臨床発達心理士資格を取得しようと考えている方々にも参加していただきました。参加者数は24名(うち会員14名、非会員10名)、臨床発達心理士会各支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)でした。



5 日本臨床発達心理士会中国・四国支部第13回研修会(シンポジウム)のご案内

中国・四国支部の活動として総会に引き続き研修会(シンポジウム)を開催いたします。支部主催の研修会として資格更新ポイントは1ポイント(3時間)です。何かとお忙しい時期ですが、たくさんの会員の方々のご参加をお待ちしております。

1. 日 時 2008年6月7日(土) 14:00~17:00
2. 場 所 広島オフィスセンター 住所 広島市南区東荒神町3-35
電話番号 (082)263-8600

アクセスは総会案内の図と下記のアドレスを参照

<http://www.intelligent-hotel.co.jp/main/map.html>

3. テーマ：臨床発達心理士の役割を考える

～これまでの歩みを確認し、これからの活動を考える～

司 会 猪木省三

話題提供 山崎 晃 設立の経過とこれまでの活動

三宅幹子・倉盛美穂子 保育支援ニーズの実態から

田中昭夫 幼児教育の立場から

指定討論 名和原恵理・八島美菜子

6 事務局からのお願い

◇ご登録アドレスの変更について

現在メールで総会、研修会などの情報提供をしていますが、新年度で所属の異動にともないメールアドレスが変更になった方や、その他メールアドレスを変更されたい方は事務局までお知らせください。また、メールでの情報提供を新たに希望される方も、事務局までアドレスをお知らせください。

◇資格更新手続きについて

昨年、資格発足年度取得会員の方が更新を迎えましたが、今年度は2004年に資格取得をされた方の更新年度となっております。該当されるみなさんは、今後資格認定運営機構から出されます更新情報をよくご覧になり、締切期日などお忘れのないようご確認ください。また、現時点で更新に必要なポイントが取得できていない方は、今後実施される研修会へのご参加や学会発表など、積極的に資格更新ポイントを取得なさってください。臨床発達心理士会や支部の活動の活性化のためにも、一人でも多くの方が資格更新されますよう、お願いいたします。

7 編集後記 ～会報企画へのご投稿を～



新緑が目には鮮やかな季節となりました。中国・四国支部会報は今回で第10号となりました。支部会員の数も年々増加し、今後も支部の活動を活発化させていくためにも、支部会報の内容を充実させていきたいと考えております。そのため、今後も支部の会務報告や研修会報告・ご案内の他、会員相互の情報交換等にも役立てて、バラエティにとんだフレッシュな紙面作りをしたいと願っています。そこで、会員の皆様から今後ご投稿を広く募ります。会報に対するご意見も気軽にお寄せ下さい。

(宛先：yashima●sanyo.ac.jp：Emailご利用の際は、●を@にかえてご入力ください。)